

MSM 出会い系掲示板における 文末表現「っす」の用法について

金城 克哉

今回、MSMの男性が利用する出会い系掲示板の投稿文の分析調査を行った。^(注1)
調査ではさまざまな特徴的な言葉が見られたが、本稿では文末表現（助動詞）「です」
の代替表現「す」「っす」に議論を絞る。

1. 調査概要

今回インターネット上の出会い系掲示板6つを調査対象とした。2008年11月1日～
2009年4月30日までの半年間の全投稿のうち、過去ログとしてコンピュータ上で検索
できるものを利用し、1回の投稿を1ケースとしてカウントした。総投稿数は42,560、
それぞれの掲示板の月別の投稿数の内訳は以下の通り。

表1 各掲示板の月別投稿数と総数

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計
掲示板A	3,753	3,335	3,528	3,333	3,887	3,639	21,475
掲示板B	2,153	2,132	2,020	2,150	2,578	2,822	13,855
掲示板C	195	154	138	140	123	121	871
掲示板D	241	227	234	166	197	204	1,269
掲示板E	243	236	264	291	344	328	1,706
掲示板F	596	605	497	506	556	624	3,384
計	7,181	6,689	6,681	6,586	7,685	7,738	42,560

サンプリングのために投稿数の最も少ない「掲示板C」を基準とし、それぞれの掲
示板の投稿数との比を計算した（小数点1位は四捨五入）。その結果、表2に示す割
合が得られた。この比率が反映されるよう、それぞれの掲示板について11月から4月
までの投稿の中から総標本数が2,400（母集団の約5.64%）となるよう標本を採取した。
標本採取にあたってはコンピュータ上で発生させた乱数を用いた。またこの2,400ケー
スの分析にあたってはテキストマイニング用に開発されたKH Coderを利用した（解
析器は茶筌、辞書はUniDic）。^(注2)

表2 掲示板Cを基準とした投稿数の割合と標本採取数

	掲示板A	掲示板B	掲示板C	掲示板D	掲示板E	掲示板F
Cを1とした割合	25	15	1	1	2	4
標本採取数	1,250	750	50	50	100	200

2. 調査結果

2.1 頻出語

助詞・助動詞・否定助動詞・未知語を除く（但し比較のために「っす」を加えた）
頻出上位20語（投稿数順）は以下の表に示す通りである（例：順位1位の「人」という語は、931の投稿（ケース）中1,234回用いられていることを表している）：

表3 上位20語の出現回数

順位	語	品詞	投稿数	出現数	順位	語	品詞	投稿数	出現数
1	人	名詞	931	1,234	11	足	名詞	235	238
2	メール	名詞	475	519	12	しゃぶる	動詞	232	286
3	今	副詞	418	463	13	体型	名詞	227	251
4	場所	名詞	412	433	14	那覇	名詞	221	235
5	いい	形容詞	279	314	15	タチ	名詞	219	240
6	掘る	動詞	272	346	16	募集	名詞	217	243
7	普通	形容動詞	271	302	17	ウケ	名詞	204	221
8	ない	形容詞	254	291	18	タイプ	名詞	204	218
9	方	名詞	245	308	19	よろしく	副詞B	198	203
10	短髪	名詞	244	277	20	っす	助動詞	178	228

2.2 「す」および「っす」の出現数

本稿がとりあげる助動詞「す」・「っす」（以下まとめて「っす」と表記）は262の投稿で334回使用されている。10代から50代までの各年代からのデータおよび年代別の出現数とそれをグラフ化したものを以下に示す：

- (1) 一応、見た目気にしてるかんじっす。(10代)
- (2) 太目は無理す。(20代)
- (3) 短髪、スポーツ刈り、坊主限定でよろしくっす。(30代)
- (4) 短髪髭 毛深いっす (40代)
- (5) 現実に来れる短髪か髪の毛の短い方よろしくっす。(50代)

	出現数	% 値
10代	4	1.197
20代	196	58.682
30代	109	32.634
40代	3	0.898
50代	1	0.299
不明	21	6.287

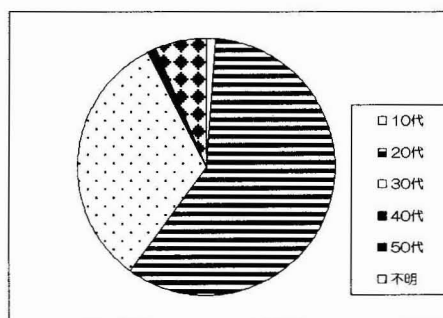


図1 「っす」の年代別出現数

2.3 共起ネットワーク

次に最小出現数15以上の名詞、サ変名詞、形容動詞、タグ語 (UniDicに登録されていない語)、動詞、形容詞、副詞について、共起の程度が強い語を線で結んだネットワーク図を以下に示す (矢印で「す」および「っす」を示す)。

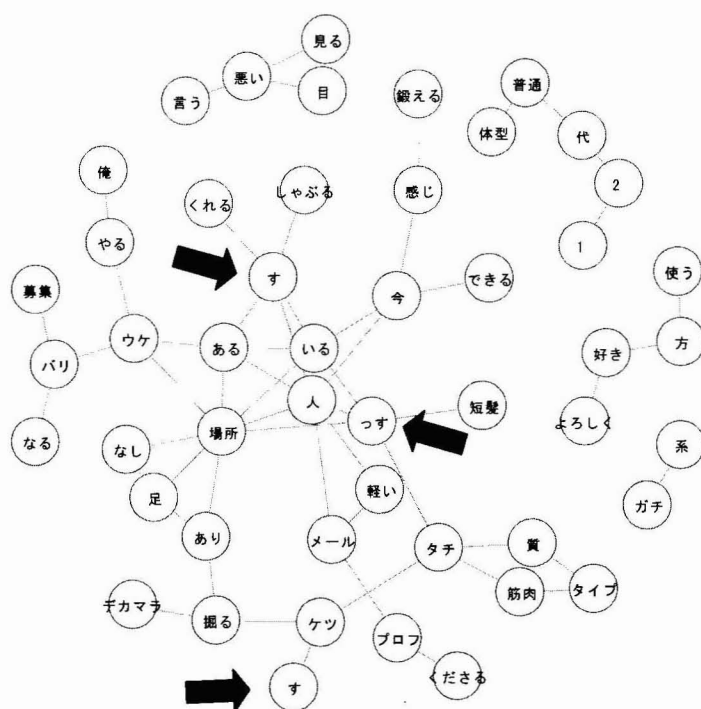


図2 頻度15以上の語のネットワーク図 (Min.Jaccard =.165)

KH Coderでは「す」が記号と助動詞という2種類に分類されているため、図2では「す」が2箇所に見えている。この共起ネットワークではそれぞれの語が「近くに配置されていても線で結ばれていなければ、特に共起関係が強いというわけではない」(樋口 2009)。

3. 考察

本稿は出会い系掲示板の語彙調査の一部である。掲示板への投稿者が「です」ではなくあえて「す」や「っす」を用いていることに注目し、①主に20代の投稿者が用い、また②共起する語にも何らかの特徴が見られるという仮説を立てた。これは「す」や「っす」が一般的に体育会系の学生が用いるものであると考えられているためである。しかしながら表4が示すように、20代と30代が「っす」の使用の90%を占めており、また図2が示すように、「短髪」「しゃぶる」「ケツ」「人」「場所」などはそれ自体高頻出語であることから、年代や語の共起関係から特徴を探ることはできなかった。

一般的に男性同性愛者はしぐさや言葉遣いが女性のような男性であると考えられがちであるが、少なくとも今回のサンプル調査では女性の話し言葉の特徴としてあげられる終助詞の「よね」「わよ」「のよ」などは1例も見つからず、また女性に言及のあった表現では「長髪 女っぽい人はすみません」、「細身～がちむちで女っぽくない相手希望」、「女受けいいすよー」などが見られた。このことから、投稿する側は（実際の Face-to-Face コミュニケーションでどういった言葉遣いをするのか（所謂「オネエ言葉」を使用するのか）は別として）一般的な「男性」というペルソナを打ち出し、また出会いたいという希望の相手にも同じように「男性」というペルソナを要求しているということが言えるのではないかと考えられる。

今回は時間的な制約のために十分な議論を行うことができないが、社会学者ゴッフマンの指摘する以下の点は参考になるであろう：

- ① 行為主体（エゴ）は表出性に関して「意図的にする give 表出と、何気なくする give off 表出」という記号活動を行う。（1974：3）
- ② 「エゴが他者の前に現れる場合、一般的に言って、伝達することが自分の利益になる印象を与えるように、自分の挙動を操作する理由」がある。（1974：5）
- ③ 「ときにエゴは徹底的に計算づくで行為し、ただただ相手から得たいと腐心している特定の反応を喚起する可能性の高い印象を与えるためにのみ、ある特定の仕方では自己自身を表出する」（1974：7）

投稿者は行為主体として自分はこういった特徴を持ち、またこういった人物と出会いたいのかを give 表出として掲示板閲覧者に訴えかける。自分の望む対象と出会うことができればそれは自分の利益となり、そういった対象者から特定の反応（この場合はメール）を喚起する可能性の高い印象を与えるために、丁寧体の「です」ではなく、敢えて「す」や「っす」を用いて自己表出を行っているのではないか。

「す」や「っす」という言葉遣いがコミュニケーションの資源としての若者言葉（井上他 2006）に属する一方で「性資本」（イーディー 2006:277）の一部ともなっているために、その資源や資本を活用する場合もあるであろう。またその一方で、自らはそういった「体育会系」の活動に携わったことはなくとも（資本は持ち合

わせていなくとも)、それが資本として価値があると見なされるがゆえにこういった言葉遣いが流用 (appropriation) されていると考えることもできよう。また「体育会系」というイメージが喚起する上下関係も「す」や「っす」の用法に影響を与えていると思われる。

注

- ¹ MSMとはMen who have sex with menの略で、自らのセクシュアリティを問わず、「男性とセックスをする男性」という包括的概念として用いられる。調査に際してはデータ収集に利用した掲示板の管理・運営者の同意の上で行われた。
- ² KH Coderは同志社大学の樋口耕一氏が開発したフリー・ソフトウェアである。本調査ではVersion 1.beta21を用いた。<http://khc.sourceforge.net/index.html>より最新版が入手できる。このKH Coderは形態素解析器として茶筌を利用しているが、茶筌は奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科自然言語処理学講座(松本研究室)によって開発されたものである。詳しくは次のURLを参照のこと：

<http://chasen-legacy.sourceforge.jp/>

また以下のURLより最新版のダウンロードが可能である：

http://sourceforge.jp/projects/chasen-legacy/releases/?package_id=5864

今回の分析では解析器システム用電子化辞書として、IPADICではなく、千葉大学の傳康晴氏らが開発したUniDicを用いた(今回はunidic-chasen1312_sjis.zipを利用)。UniDicについては以下のURLを参照のこと。

http://www.tokuteicorpus.jp/dist/modules/system/modules/menu/main.php?page_id=1&op=change_page

参考文献

- イーディー, J. 2006 『セクシュアリティ基本用語事典』明石書店
- 井上逸兵他 2006 「コミュニケーションの生態系：現代日本の若年層の言語使用を中心として」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』No.36, pp.1-16
- ゴッフマン, E. 1974 『行為と演技：日常生活における自己呈示』誠信書房
- 樋口耕一 2009 「KH Coder 2.x リファレンス・マニュアル」